

主 体的

対 話的で

深 い学び

学校改善

・

授業改善

主体的・対話的で深い学びに向けて

## 児童生徒の「主体性」を育てる取組を継続しましょう

～主体性と学力は「両輪」で伸びる～

&lt;「児童生徒質問調査」から&gt; (数値は仙台市を含み、【 】は前年度との比較による数値です)

※ 数値は回答選択肢の「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」を合算したものです

質問番号	質問事項		R7	R6	R5	自校(R7)
児童生徒質問 (32)	(前年度まで受けた)授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	小学校	81.5 [-1.5]	83.0 [+4.5]	78.5	【 】
		中学校	78.6 [-3.8]	82.4 [+1.9]	80.5	【 】

児童生徒の主体性を育むために活動を委ねる取組が増えて  
いますが、ねらいの理解、適切な見取りと支援が不可欠です。

## &lt;経年比較から&gt;

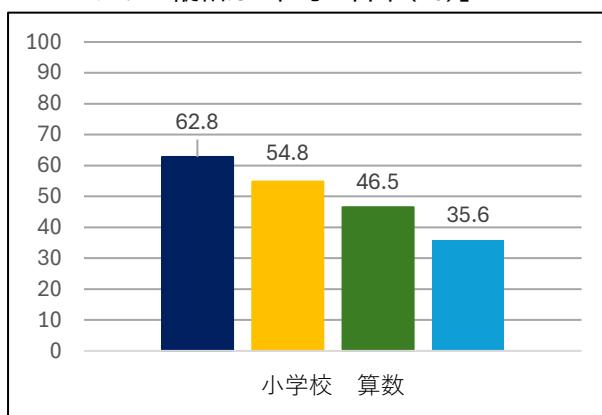


宮城県児童生徒の「主体的に学ぶ姿勢」における肯定的回答回答について、令和6年度は令和5年度と比べて小学校で4.5ポイント、中学校で1.9ポイント増加しました。しかし、令和7年度は昨年度より小学校で1.5ポイント、中学校で3.8ポイント減少しています。

宮城県内の学校では、児童生徒の主体性を育む様々な取組が実践されています。それらを継続しながら、児童生徒が「主体的に学習に取り組めている」と実感できるような工夫を、さらに実践していきましょう。

## &lt;教科とのクロス集計&gt;(算数・数学)

※ グラフ縦軸は「平均正答率(%)」



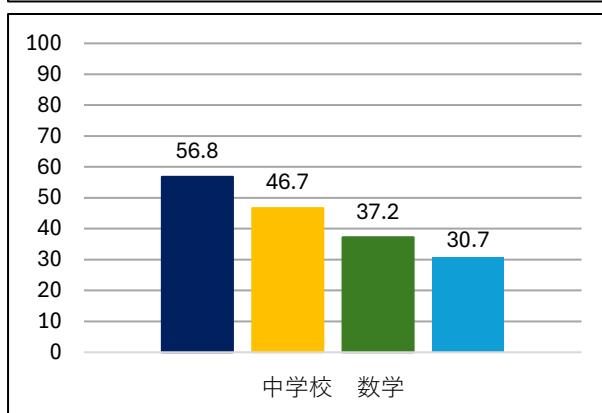
※ グラフ横軸は回答選択肢

■ : 1 (当てはまる)

■ : 2 (どちらかといえば、当てはまる)

■ : 3 (どちらかといえば、当てはまらない)

■ : 4 (当てはまらない)



教科とのクロス集計からは、主体性が高い児童生徒ほど学力も高い傾向が一貫して見られます。

このことは、学力の向上が単なる知識や技能の習得だけでなく、学びに向かう力や自分で学びを調整する力と深く関係していることを示しています。

先生方の一つひとつの工夫が、子供たちの主体性を育て、確かな学力の育成へつながっています。

今後も、子供が自ら学びに向かう学校づくりを進めていきましょう。





## 児童生徒の主体性を支える「学年チーム」による協働

各学校の核となる主任層教員のリーダーシップを『変革のエンジン』とし、若手もベテランも立場を超えてアイデアを出し合い、全教員で未来の学びを創造していきましょう。

### <授業づくり・集団づくり 実践例>

#### ○小学校 体育科（表現）

**児童のやる気**  
「自分たちでダンスの曲や振り付けを考えたい」



**学年チームの協働**  
「子供たちの発想を生かそう」「子供たちが主体的にダンスを創り上げていく声掛けをしよう」「全校児童や保護者・地域に発表する機会をつくろう」



<学習発表会で披露>

#### ○中学校 学習支援

**学年チームの協働**  
「学習方法に悩む生徒たちのために、放課後に学ぶ機会を設定してみよう」



**生徒のやる気**  
「放課後学習会に参加してみよう」



<放課後学習会>

**学年チームの協働**  
「全教員で『学習相談日』を設定し、定着テストも行って学力を向上させたい」

#### ○小学校 交換授業・交換担任

**学年チームの協働**  
「道徳の授業を改善したい」「学年で給食・清掃の指導をそろえ、子供たちの成長を支えたい」



**学年チームの協働** 「学年で検討した道徳の授業から給食・清掃まで指導することで、学年担任の意識を高めたい」

(例)		I組	II組	III組
4校時	3組担任（中堅層）	1組担任（主任）	2組担任（初任層）	
給食				
清掃				

※ 放課後に、授業の振り返りと情報交換（生徒指導関係）、給食・清掃指導の確認

**児童のやる気**  
「いろいろな先生と学習してみたい」

### <ICTを活用した アイディア例>

#### ○オンライン共有ノート

- ・会議前に議題に対する意見を書き込み  
⇒ 会議では「協議」から開始
- ・メンバー全員で共通シートに意見の書き込み  
⇒ 確実な共通理解と記録の蓄積
- ⇒ 他学年とも共有すれば学年経営のヒントに

#### ○複数学年合同の「学年会議」

⇒ 授業動画や子供のノートなどを基に協議

#### ○「チーム担任制」的発想の導入

⇒ 教務主任、養護教諭、栄養教諭、通級担当などの担任以外を含めた児童生徒理解

#### ○近隣校とのオンライン会議 ⇒ 情報交換会

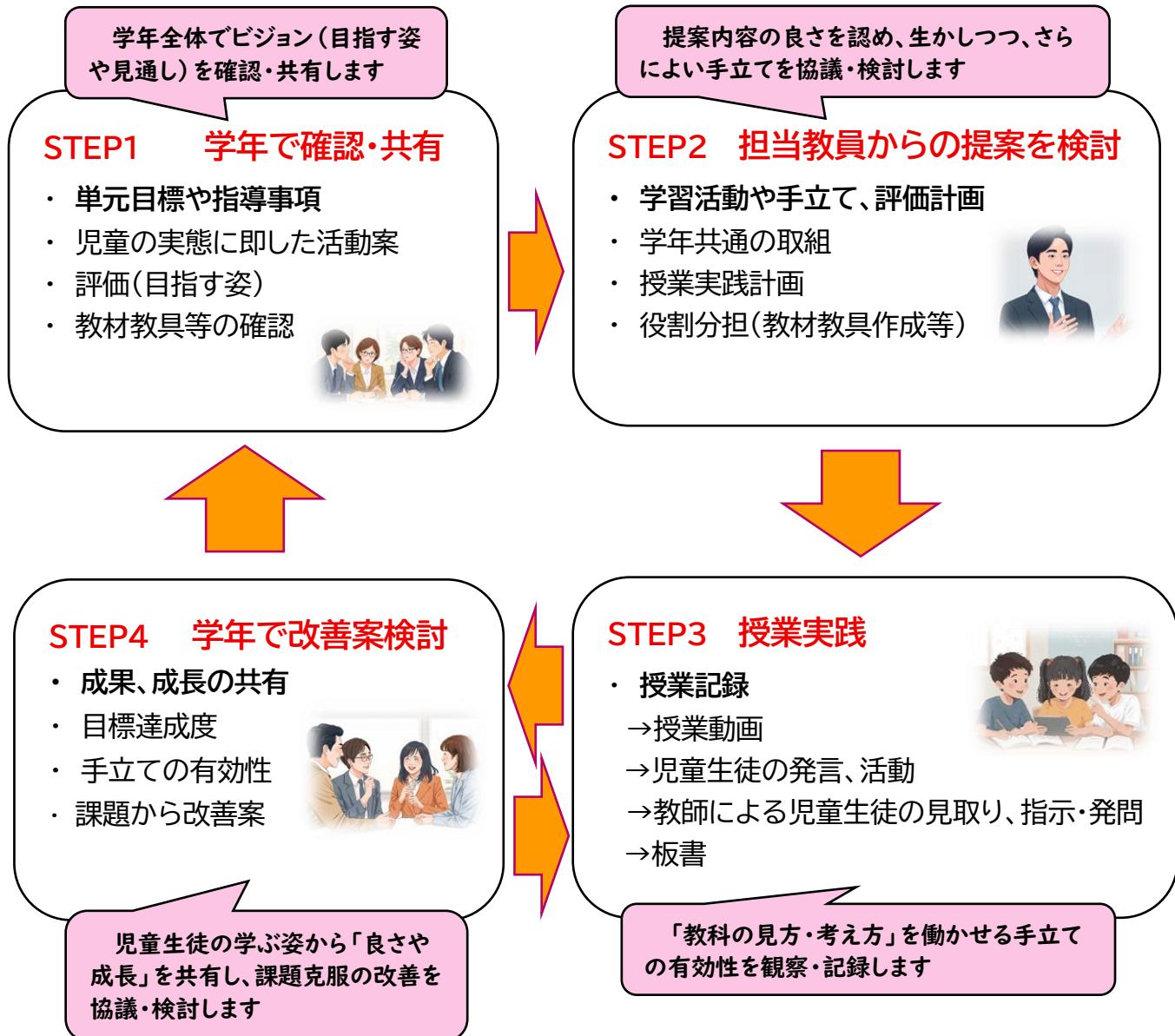
## 【補助資料】「協働」を生み出す学年会議のポイント

- 1 学年主任がビジョンを示す  
～学年目標に向かって意図的・計画的に～
- 2 学年教員間の「相互理解」と「尊重」を促す
- 3 「強み」を生かす(引き出す)～任せて、支える～

Check!



<実践事例～授業づくり編～>



学年主任は、学年教員の「強み」(得意分野)を引き出し、担当責任者として成長できる機会をつくってみましょう。

周囲は温かく見守りつつ、適宜指導・助言の声掛け等を行いながら支えていくことが大切です。



## STEP1 「協働」でアセスメント①

- ・引継資料や前年度担任からの情報共有  
(配慮事項、友人関係、家庭での様子等)
- ・児童生徒の作品  
(「志」シート、道徳ワークシート、図工美術作品、作文・日記、目標カード等)

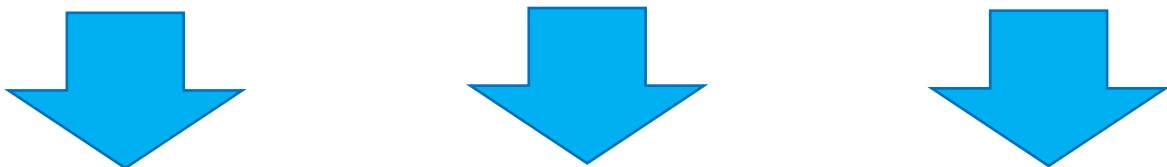


Check!

## STEP2 「協働」でアセスメント②

- ・日々の様子(言動等の見取り)の共有
  - 表情       服装(乱れはないか)
  - 行動(落ち着き、学習用具、忘れ物等)
  - 言葉遣い(否定的な言葉、自他を傷つける言葉等はないか)
  - 周囲とのかかわり(友達・教師・家族)
  - 学習の様子(得意分野、苦手分野(つまずき))

事実や気付きを記録し、根拠をもって指導支援に当たることが大切です。



## STEP3 学年主任等のファシリテーションによる「協働」

### <児童生徒へのアプローチ>

- ・複数の教員から声掛け  
(授業・休み時間・部活等)  
→児童生徒の反応を教員間で共有  
→継続したかかわり
- ・朝や帰りの会、授業、学年集会等で児童生徒の良さを賞賛する場面の設定

### <教員へのアプローチ>

- ・管理職や生徒指導主任(担当)、養護教諭、SC(スクールカウンセラー)等、学年以外の教職員と情報共有
- ・ケース会議の早期かつ継続的な設定

### <家庭へのアプローチ>

- ・電話、連絡帳、教育面談などを通じての情報共有と相談
- ・学校便り、学年便り、学級便り等を通じて、児童生徒の良さや成長等を定期的に伝える。

主体的に「協働」する学年教員の「チーム」としての姿勢が、

児童生徒への支援をより深く、確かなものにします。

